

「京の生きものホットスポット調査」の分析・評価結果について

1 調査概要

平成26年3月に策定したプランに基づくリーディング事業である自然環境の現況に係る基礎調査（ホットスポット調査）を実施することで、本市の生物多様性保全の取組の推進に資することを目的としている。

平成26年度～平成29年度は、京都市域において既存の団体等が実施している自然環境調査の結果について、文献調査及びデータ整理を行った。

平成30年度は、取りまとめた自然環境調査結果を基に、京都市域の自然環境の現況の分析・評価を行った。

表1 入手・整理した自然環境調査結果

地域区分	調査地点	調査者
奥山・里山	東山	東山自然史研究会
	八丁平	京都市林業振興課
	大原野森林公園	「大原野森林公園」森の案内人
	大原	大原のオオムラサキを守る会
	京都大学上賀茂試験地	京都大学フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地
農耕地	巨椋池干拓地	松本 仁
	北嵯峨	京都市環境管理課
市街地	京都御苑	京都自然観察学習会
	梅小路公園いのちの森	京都ビオトープ研究会
	法然院の森	法然院森のセンター
	洛西ニュータウン	三上 祥子
	下鴨神社糺の森	田端 敬三 他
河川・池沼	桂川	淀川河川事務所, 日本野鳥の会, 田子 稔
	宇治川	淀川河川事務所, 日本野鳥の会
	木津川	淀川河川事務所
	高野川	竹門 康弘 他
	深泥池	

(敬称略)

2 分析・評価結果

自然環境地域区分（「奥山・里山」「市街地」「河川・池沼」）ごとに「代表調査地」を選定（5地点）し、確認種数、希少種数、外来種数から自然環境の現況を把握して評価を行った。

また、代表調査地で生息・生育が確認されたもののうち、「状況の変化等を捉え易い」、「代表調査地の環境に結びついている」、「一般市民にも認知度が高い」といった視点から指標種（アユ、キビタキ、ニホンアマガエル、タヌキ等）を選定し、その生息・生育状況の確認を行った。

なお、代表調査地は、複数項目を複数年調査している地点を選定した。

表2 京都市域の自然環境の現況の分析・評価結果

地域区分	調査地点	分析・評価結果
奥山・里山	大原野森林公園	1997年～2013年の間は、大きな変化が見られないことから、概ね同様の環境が維持されているものと推測される。
市街地	京都御苑	1984年～2012年の間は、大きな変化が見られないことから、概ね同様の環境が維持されているものと推測される。
	梅小路公園いのちの森	1996年～2015年の間は、大きな変化が見られないことから、概ね同様の環境が維持されているものと推測される。
河川・池沼	桂川	2006年～2016年の間は、大きな変化が見られないことから、概ね同様の環境が維持されているものと推測される。
	宇治川	2007年～2016年の間は、大きな変化が見られないことから、概ね同様の環境が維持されているものと推測される。